

図書報だより

題字 島根県教育委員会教育長

号数 第 20 号
 発行日 昭和 47 年 11 月 1 日
 編集行 島根県立図書館
 松江市内中原町 52
 TEL (0852) 22-5725
 印刷 (有) 高浜印刷所



提供 ————— 島根新聞社 —————

神原神社古墳出土の 景初 3 年陳是作重列式神獸鏡

去る 8 月 19 日、大原郡加茂町の神原神社古墳から、中国の三国時代の魏の年号である景初 3 年の銘のはいた銅鏡が発見された。

神原神社は、赤川左岸の微高地の突端にある神原神社の本殿の建っていた位置に造られた古墳である。今度赤川の改修工事で壊される破目になり、発掘調査をされた。内部主体は、割石を小口積みにした長さ 5.8m の竪穴式石室で、鏡のほかに鉄製の大刀、劍、鏃の武具類、鍬、鎌、のみ、やりがんな、錐などの農具なども発見された。

鏡は径 23cm、縁は断面三角形で、背面の図文は一方から見るように四神像と四怪獣を階段状に描いている。銘帯はその外側をめぐって約 40 字あり、「景初 3 年陳是作鏡」〔景初 3 年（239 年）、陳氏この鏡を作る〕と始まっている。景初 3 年といえは、魏志倭人伝に倭の邪馬台国の女王卑弥呼が魏に朝貢したと記されている年であり、この時卑弥呼は種々の品と共に銅鏡百枚をもらったといわれている。景初 3 年鏡はほかに大阪の黄金塚古墳から出土している。

この鏡が卑弥呼のもらった鏡のうち一枚であると断定することはできないが同じ年であることは興味深いことで、大変重要な発見である。

(大東中学校教諭 蓮 岡 法 暲)

古墳 幻 筆

島根県立図書館長

速 水 保 孝



古代史ブームが吹きまくっている。高松塚の貴婦人と貴公子達が、あざやかな色彩の衣をまとい、えんぜんとはほえみを浮かべながら、その姿を現わしてこのかた、急激に国民的関心がタイム・トンネルを通して、古代社会へと向って行った。

おまけに、日中復交の前奏曲をかなでるかのよう
に、中国に飛んで、長砂からは、2千年の深いねむりよりさめた「レディ」の遺体が、おびただしい副葬品を伴って、ほぼ完全な姿で発掘された。

今度は、再び日本に帰って、島根県大原郡加茂町の神原神社古墳から、どえらいものが飛びだしてきた。古代中国、魏の景初3年（239年）と読まれる青銅製の紀年鏡が、鉄製の刀やツカガシラ、ホコ先、ヤリ、ヤジリなどの武器類と、ノミ、カマ、クワなどの鉄製農具類とともに、弥生末期の土師器を伴って出土したのである。しかも、古墳の型式や出土品からして、4世紀初めの、いわゆる前期古墳というのだ。

このニュースは、連日のように各紙をにぎわし、いやがうえにも古代史研究ブームをかきたてていった。

私が、神原古墳に異常にまで憑りつかれたのは、そこに私の幼い夢がこびりついているからだ。生家から直距離で200mも離れていない神原神社の境内は、毎日の遊び場でもあった。長ずるに及んで、私が東大で日本史を専攻したのも、案外、神社の境内に散乱していた土師器の破片をもてあそんだ子供の頃に、その因を求められるかもしれない。

学徒動員で海軍予備学生になり、幸いにも、生き

て帰って来た昭和20年の秋から冬にかけて、私は友人の黒田君（現松江市総務部長）と二人で、雑誌「螢」を発行する準備をした。実際にでたのは翌年の春であったが、私はその中に、「過去」という題で小説を書いている。これは、ごく最近まで、すっかり度忘れていたが、神原古墳が話題になってから、急に思い出されてきた。そのうち黒田君が、問題の雑誌を届けてくれた。聞けば二冊ほど保存していたという。私は嬉しかった。と同時に、26年前の自分にめぐり会えたような錯覚に落ち込んだ。

何んと、私の小説は、神原古墳の主を誰れかと問いつながり、日本書紀に伝わる、出雲族が大和勢力によって征服される、悲劇の説話を小説風にまとめあげた、今様でいう歴史文学であった。

その素材はこうである。崇神天皇の60年（3世紀後半）に、出雲族にとっては大事件が勃発した。天皇が、出雲大神宮の神宝である、^{またねのうましかがみ}真種之甘美鏡を見たいと言いだしたことにはじまる。大和は物部の同族である武人の^{たけのもろずみ}武諸隅を大将として、出雲遠征軍を派遣し、神宝を検校えさせたといい。

古代社会の部族達は、各々自らの権力の象徴として、神器を持っており、宝庫を設けて大事に保存していた。従って、この神宝を他の部族にとりあげられることは、とりもおさず、相手に帰服することを意味した。そして、神宝としては、剣や玉器の場合もあったが、主として、鏡が珍重された。それは、鏡のもつ魔術性によるものであった。顔を写すというよりも、太陽の光を鏡面に反射させることによって起こる、呪術的神秘さによってである。

こんな意味をもつ神宝を、大和に差し出すようにとせまられた出雲族は、和戦の岐路にたたされた。

丁度そのとき、神宝の管理者であった出雲振根^{いずもふるね}は、筑紫（北九州）に出向いており不在であった。代行人である弟の飯入根^{いいりね}は、兄振根^{ふるね}に無断で神宝を大和に献上し、降服してしまった。北九州から帰ってきた振根^{ふるね}は大変立腹したが、時すでにおそかった。そして、数年経っても、弟に対する怒りは収まらず、ある日、飯入根^{いりね}を止屋淵^{やむやぶち}にいぎなって謀殺し、大和朝廷に叛旗をひるがえした。そこで飯入根^{いいりね}の弟、甘うまし^{うまし}からひさ美^{うかつくね}韓日狭^{うかつくね}と子供の鷗瀨^{うかつくね}淳^{うかつくね}とが、このことを大和に報告して救援を請うた。大和は直ちに、吉備津彦^{たけ}と武渟^{たけ}河別^{たけ}の二將軍を大將に軍勢を派遣した。前者は吉備地方から中国山脈をこえ、後者は山陰道を西進してともに出雲に至り、ついに^い出雲振根を殺したとある。

この日本書記の説話は、もとより全部が史実であるとは言えないまでも、つぎのようなことは当然考えられる。すなわち、三世紀後半から四世紀にかけての出雲地方に、北九州勢力と連携を求める、出雲振根によって代表される旧勢力と、台頭してきた大和勢力に迎合する、飯入根によって代表される勢力との対立抗争が激化し、これに乗じて、大和の出雲征服が行なわれたとともに、出雲地方における諸勢力が、意宇族によって統合され、いわゆる出雲の国の統一が行なわれたということだ。

このような神話解釈は可能であるが、やっぱり小説化するには、古代人の感覚としての説話をそのままにとりあげてみたかった。そして、素材にはないが、「月姫」という「シャーマン」を配して色彩をつけた。事実、祭政一致から完全に抜け切っていない当時には、邪馬台国の卑弥呼のような巫女がいても、一向に差し支えないと思ったからだ。

神原古墳から出土した魏の記念鏡は、てっきり出雲族の神宝であると信じている。それは学問を超越した私の感応力から出る信念である。それを間違っていると人は批判するかもしれぬが、絶対に誤りだとも言えまい。だから、古代史は楽しい。幻想を展開さす余地があるからだ。

それはともあれ、出雲族の神宝である鏡は、大和

へ献上された。爾来、出雲族は、大和をおそれて、大神を祭ることをやめてしまった。ところが崇神紀に、中絶した出雲大神の祭りを、「遠慮しないで再開するように」と出雲族に命じたとあるから、一度とりあげた出雲族の神宝を、大和から出雲に返却されたことが予想される。そうしなければ、權威の寄りどころがないからだ。

しかし、その後も、しばしば出雲族の叛抗が見られたらしい。垂仁紀に、天皇が物部十千根^{ものべとちねのおおむらじ}大連を呼んで、出雲遠征を命じている。その結果、出雲は完全に大和に屈服させられ、天皇は十千根^{とちね}を、出雲族の神宝の管理者に任命している。

十千根は大和より派遣された出雲進駐の軍司令官であった。彼によって代表される大和勢力は、かつて、出雲振根によって代表された出雲旧勢力の統治国である、出雲、神門二郡の地へ進出して行った。このことは、大和系の円墳が、西出雲へと後になって分布していることによっても明らかである。

神原古墳の主は一体誰だろう。私の幻想では、物部十千根の墓である。というのが、古墳発掘者の、大東中学教諭連岡氏によれば、どうやら円墳らしいとのことだ。衆知のように、出雲独得の古墳形式は、方墳、あるいは前方後方墳である。円墳であるとするならば、大和形式と一応考えねばならない。そうすれば、神原古墳は、神原にある神宝の管理者としての十千根の大連の「おくつき」とせねばなるまい。

出雲族の氏族神話が語られている「出雲風土記」によれば、古来、神原のさとは、神財^{さと}の郷と称し、出雲大神の神宝を積んで置いた処とある。十千根に代表される大和勢力が、完全に^い出雲を征服したからには、出雲族の神器である真根甘美鏡^{またねのうましかがみ}は、既に御用ずみになったはず。十千根の死とともに神原古墳にうずめられたであろう。

とにかく、無残であると同時に残念である。神原古墳、私の幼い夢をはぐくんだその古墳が、河川改修の名の下に水底に没しさろうとは。識者をもって如何んとなす。

出雲神話

水野 裕著

神国出雲、この出雲の神話を伝える書物には、「古事記」「日本書紀」「出雲国風土記」がある。しかし、「記紀」は大和朝廷の意図によって潤色され、編纂されたものであって、出雲国に実際に伝承されたものではない。この書での出雲神話とは、あくまでも「出雲国風土記」に見ることのできる、固有の神話をいうのである。

著者は、「記紀」「出雲国風土記」における神話体系の相違から、出雲と大和との政治、社会等の歴史的関係を究明し、古代の出雲歴史を明確にしていくのである。

高松塚古墳、長沙古墳の発掘に伴って、古代史への関心が一段と高まってきた昨今、郷土の歴史たる出雲神話をどのように解釈すれば良いかを教示してくれるのに適切な書である。

(八雲書房 780円)

まぼろしの出雲国庁

吉川 博著

古代史、考古学、特に古代出雲に関心を持つアマチュア考古学者に最適の図書である。

内容は地理的位置、歴史的評価、幻の国庁発掘過程を述べ、ジャーナリスト(著者は新聞記者)の冷静な目で筆をすすめている。

神の世に人間の世を結ぶ幻想の世界を解きあかし、祖先の生活を知る手がかりとして、今日、忘れられた形の出雲の地を知ることも意義深いことである。

新しく開館された「八雲立つ風土記の丘」を見学する前に、ぜひ読んでおきたい。

(新人物往来社 850円)

日本の神話と伝説

(世界民話の旅10)

藤沢 衛彦

伝説と神話から構成されていて、神話の部分には「ヤマタノオロチ」「オオムナジ物語」「スクナヒコナ物語」が載せてあり、高学年には出雲神話の概略が大体これで理解できる。(講談社 650円)

日本の神話 2巻

松谷みよ子著

第一巻は古事記・日本書紀・風土記の中から抜すいし、日本誕生のながれが構成されている。第二巻

には、地方神話がおさめられていて、その中で神話の大きさ、無邪気さ、人間らしさを通して、時代をこえた古代人の心を伝えようとしている。これは、ものがたりとして低学年からよめる。

(講談社 各 560円)

くにこい くにこい (民話の絵本7)

永井 萌二文 木幡 朋介絵

出雲神話のもつ大らかな人間性への讃歌を、自然とそのすばらしい自然に恵まれた人々の話を通して、絵をみながら幼児にでも語りきかせられる絵本です。

(ええら書房 550円)

古代の出雲

水野 裕著

日本古代史において、重要な役割を演じたと思われる出雲、その全容が神話と伝説のベールに包まれ、今だにその姿をあきらかにしていない。この書は、その出雲の姿を究明しようとした著者の歴年の作である。出雲の自然景観、人種的形成、特質、出雲の文化等を言及することによって、その歴史的形を明らかにし、杵築と意宇の関係、出雲と大和の抗争、出雲国造の成立等を、文献、遺跡、遺物等を駆使して明解な説をうち立て、「神話の国出雲」の真の意味を追及している。古代におけるロマンの裏の真実に触れる、好書であると共に、出雲再認識の学究的良書でもある。

(日本歴史叢書29 吉川弘文館刊)

郷土資料シリーズ
刊 行

最近郷土の歴史への関心がたかまりつつありますが、郷土資料刊行会では、入手困難な稀覯本や、未公開の史料をできるだけ安価に刊行し、郷土史研究の一層の進展を期したいと思います。

第一回配本

和訳 出雲私史 全一冊
桃 節山著 谷口為次 和訳
A 5 360頁 価 1,000円

続刊予定 雲陽軍実記、出雲藩山論史料、出雲嶽、懐橋談などいずれも限定出版です。この機会に講入されるようおすすめします。

県立図書館内 島根郷土資料刊行会

出雲国風土記の四著

加藤 義成

私が出雲国風土記の研究を始めたのは昭和10年のことである。当時は古事記の研究を一生のしごとにする考であったから、風土記の研究は、いわばその補助的研究であったが、戦況日ごとに緊迫する昭和18年、いつ召集されるかわからぬ不安の中に、ひそかに書き上げたのが『出雲国風土記参究』の初稿である。

ところが翌年の検診で肺浸潤と診断されて即日休養、万事を放擲して療養に専念することとなり、昭和21年40才で退官、27年の成形手術に辛うじて蘇生、このとき、命あらばせめて郷土に伝えられたこの風土記の研究を一生のしごとにしようと決意し、今日までに次のような小著を世に送った。

○出雲国風土記参究 A 5版 550頁

わが国でただ一部完全に伝えられたこの風土記を、誰にも容易に且つ正しく読んでいただけることを目標に、戦時中の初稿に手を加え、今は亡き渡部民也氏の御好意で出版したものであるが、意外に世に迎えられて1年もたたぬうちに初版千部を売り尽した。そこで、その後の研究調査によって改訂を加え、昭和37年東京の原書房から再版したが、これも今は絶版となっている。

○風土記時代の出雲 B 6版 330頁

「参究」を出してから各地で講演させられることが多く、島根新聞からはそれを文化欄に連載するようとのことで、昭和34年から翌年にかけて凡そ30回ずつ3期、計96回に及んだ。これをまとめ幾分手を加えて出版したのがこの本である。古代出雲の地理・行政・交通軍備・産業工芸・出雲国造・社寺・学問文学・言語・神話伝承・風習・慰安と薬療等について述べたもので、私自身、今も風土記を語る座右の書としているものである。

○校注出雲国風土記 文庫版 200頁

私の還暦記念として昭和40年に諸先生に捧げたま

のである。大学などでのテキストともなり、一般の研究愛読にも便利であるように、読み下し文に脚注を加え、後に原文や解説索引を附したものである。従来誤られていた本文を正し、読み方を改め、国庁や新造院の位置など解釈を新たにしたところも多く、再版の時も手を加えて、今後一層の完全を期している。

○校本出雲国風土記 B 5版 430頁

精密な研究を進めるにはどうしても正しい本文に拠らねばならないが、写本にはかなり多くの異同があるので、できるだけ多くのよい写本を集めて比較検討せねばならない。そこで全国各地に伝えられている写本を見、主なものは撮影し、これらの異同が一覧できる本を作りたいというのが私の念願であった。それがこの本である。

本書は最も系統の古い細川家本を底本として諸本の異同が一覧できるよう毛筆で影写し、オフセット版として、参考篇に諸本の系統・諸本概説・伝写の推考・校訂論考を附したもので、今後の研究の基礎となるものと期している。

諸本に「出雲郷漆沼郷」とあるのは「漆治郷」(今の直江辺)の誤であることは昭和40年に発表した。古写本にその古名を「志刃治」とある「刃」は誤写とされていたが、実は「刃」は「丑」の異体文字でつと訓むべきことは昨年学会に発表したところである。

このように本文や訓釈を改めねばならぬところがかかなり多く、更に最近発掘された神原古墳をはじめ多くの古墳や、国庁をはじめ郡家、寺院跡等、考古学の方々と協力して解明できる場所が多く、殊に近時めざましく活発になった出雲神話の研究についても、風土記の神話伝承の面から解明できる興味ある問題が残されているので、私のこれまでの著書は、その基礎的作業であったと言ってよいであろう。

第26回読書週間 はじまる！

恒例の秋の「読書週間」は、11月3日の文化の日を中心に前後2週間にわたって繰りひろげられますが、特に本年はユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の第16回総会において決定になった「国際図書年」の記念すべき年であり、「国際図書年・みんなに本を」をキャッチフレーズに全国的に関係諸団体が、それぞれ行事を計画しています。

当館では、さき再建できた島根県読書推進運動協議会とタイアップして次のとおり週間行事を計画しました。関係各方面のご協力を特にお願いたします。

○第4回島根県読書普及振興大会

県下の読書会員をはじめ、各学校図書館・各市町村教育委員会・出版物小売業組合等関係者の参集を得て、読書普及に貢献のあったグループおよび個人の表彰をおこない、また読書に関する講演会や、座談会を開催して読書普及の振興をはかる。

日時 10月23日（月）

10時20分～15時40分

場所 島根県立図書館集会室

日程

1. 表彰式

全国表彰

松江市立第3中学校PTA研修部

あゆみ会

県表彰

団体の部

簸川郡湖陵町大池読書会

個人の部

浜田市 唐馬 スズヨ

湖陵町 三原 昭司

松江市 音羽 融

多伎町 秦野 尚雄

金城町 内藤 大拙

2. 読書座談会

テーマ 「婦人と読書」

助言者 県立図書館長 速水保孝

3. 講演会

演題 「婦人と本」

講師

文化学院出版局長 今井田 勲氏

○移動図書館特別巡回

市町村立図書館およびモデル文庫の育成援助をはかるため、図書館車「しまね号」により読書週間の

期間中に関係市町村を巡回し、図書の貸し出しや、読書指導をする。

月/日	巡回地
10月30日(月)	頼原、赤来、瑞穂各モデル文庫
10月31日(火)	川本、石見、旭各モデル文庫
11月1日(水)	桜江モデル文庫
11月2日(木)	安来、布部各図書館
11月6日(月)	出雲、大社、大田各図書館
11月7日(火)	浜田、益田各図書館、柿木モデル文庫
11月8日(水)	匹見モデル文庫
11月9日(木)	大東、木次各図書館、三刀屋モデル文庫

○一日図書館

図書館の奉仕活動を広く住民に浸透させ、併せて図書館に対する認識を深めるため、平素図書館が実施している図書の貸し出しや、読書座談会、映画会、講演会などの文化的諸行事を地域で開催して読書の浸透を図る。

1. 実施市町村 平田市

2. 開催月日および実施内容

11月11日（土）会場 平田市民会館
講演会

演題 米原平内兵衛綱寛の生涯

講師 図書館奉仕課長藤岡大拙

映画会 文化映画、読書普及映画
図書の貸し出し（図書館車にて）

11月12日（日）

午前 東地区（会場東公民館）

午後 久多美地区（会場久多美公民館）

読書座談会

助言者 地区公民館長

、図書館振興課長

こども会

紙芝居、お話し会

映画会（久多美会場のみ）

文化映画、読書普及映画等

○一日図書館長

図書館の奉仕活動の改善に役立てるため、婦人代表を一日図書館長に招き、利用者の立場から意見や要望を聞く。

1. 開催月日

11月14日（火）

2. 一日図書館長

県農協婦人部長 山内静代女史



読書グループ紹介

湖陵町大池公民館 三原 昭 司

昭和39年、地区 300戸の願いがかなって公民館が落成し、活動が軌道にのるや、昭和42年より地区ぐるみで少年健全育成に取り組んだ。さっそく子ども会を結成、仲間づくりや体力づくりを主体に活発な活動を展開した。しかし、海岸育ち特有の気質のあらさ、それに本の購買力の低さから、健全育成の一端は読書にあると考え、44年11月、子ども文庫を設置するにいたった。

しかし、一度に多くの本を購入することは予算上許さず、結局古本集めに奔走、子ども会とPTA及び公民館役員により集めたのが 136冊、新本と併せ 176冊を公民館の一室に収め、更に子ども会の「小遣い節約分30円」を月々拠出することを申し合わせ、子ども文庫開設のはこびとなった。

小さな文庫だけれど、子ども達には手近かな所で本が読めるとあってとても人気がよく、毎週二回の開館日には30数人もつめかけ、思い思いの本

を手に一心に読む姿は嬉しさそのものだった。しかし、僅かな本で不安はつるばかり、その年の末県立図書館の移動文庫「しまね号」が公民館へ到着した。子ども達の喜びようといったらなく、不安は一度にかき消された。

子ども達の関心は予想以上に高く、一昨年 203冊、昨年 280冊の貸し出し、室内での読書をあわせればものすごい冊数、更に読書をすすめるために、七夕行事に読書発表会を設け、一方、大人地区民も一緒にと区会やPTA地区総会に呼びかけ、昨年は 107冊の貸し出しを見た。子ども60人に年平均4冊の貸し出し、読書冊数でいえば一人40冊にのぼるが、やや読書人の固定化が目につき出し、その対策に迫られている。

今後、青年部の活動にも盛り込み、夜の開館、読書討論会も計画し、真に地域ぐるみの読書会に向かって脱皮しつつある現状です。

視聴覚資料紹介

テレビ子マンガッ子

のしつけ (白黒30分)

タケシ(小学3年生)の毎日は、テレビとマンガに明け暮れている。圭子(母)はそれを困ったことだと思うのだが、手の打ちようがない。村上家に下宿をしている甥の浩一(大学一年)もタケシといっしょにマンガを読んでいたりと、ラジオを聞きながら勉強していたりするので、圭子にはさっぱり理解できない。夫に話してみても「子どもにとってマンガはハシカミたいなもんさ」と笑って受け流されてしまう。朝、学校にマンガの本を持って行こうとしたタケシと争った圭子は、先生に相談した。先生は「映像文化」の中で育った子どもたちは、ある意味では、

新しいタイプの子どものものです。彼等が『見る』と『読む』をはっきり分けているのは当然でしょう。しかしそのことよりたいせつなことは、親がいっしょにマンガやテレビを見てやり、それらが送りこんでくるたくさんの刺激や感動を分かち合ったり、つみ立ててやったりする必要があるでしょう。」と話してくれた。その話を聞き、圭子は、ただ頭ごなしに叱るだけではなくもっと親と子のふれ合いをとおしての、しつけが大切であることを知るのだった。

現代の子どもは、刺激や感動を、人と人との接触のなかで受けるよりも、テレビやマンガなどから送りこまれてくるもので受けるケースが多いということも、今や十分考えられる。そこで、映像文化時代の新しいタイプの子どものために不足しがちな、それでいて重要な要素は何かを、この映画をとおして考えていただきたい。

新着資料の紹介

1. 図書資料

総記

知る権利 千葉雄次郎
出版とは何か 西谷 能雄

哲学

中国古代における人間観の展開 板野 長八
隠された十字架 梅原 猛

歴史

近世農政史料集(全2巻) 児玉 幸多
カストロの道 K・S・カロール
神近市子自伝 神近 市子

社会科学

公害の政治経済学 都留 重人
日本貨幣史 塚本豊次郎
被爆二世 深川 宗俊
社会教育行政入門 今村 武俊

自然科学

ヒルベルト—現代数学の巨峰— C・リード
現代の医療問題 川上 武
世界の医療 NHK海外取材班
(図解)人体解剖学 山本 敏行

工学

鳥の死滅と魚の恐怖 N・E・ランデル
脳とコンピューター 品川 嘉也
船旅の絵本 柳原 良平
みその本 川村 渉

農業

資本主義と農業恐怖 宮下 柁次

(評論集)日本農業を考える

観葉植物
サボテン

芸術

メキシコの民芸 利根山光人
世界の民芸 浜田 庄司
仏教美術—北海道・東北— 奈良国立博物館

語学

ことばの獲得 D・マクニール
日本語発想辞典 白石 大二
ことばの思想史 B・バラン

文学

中世説話の研究 菊池 良一
はにはの子たち 畑山 博
誰かが触った 宮原 和夫
斬(ざん) 綱淵 謙錠
沖繩の英学 亀川 正東
老い(上・下) ボーヴォワール

郷土資料

まぼろしの出雲国庁 古川 博
古代の出雲 水野 祐
日野郡史(全4巻) 日野郡自治協会
邑智郡誌 森脇 太一

レファレンス

歌舞伎事典 山本 二郎
林業百科事典 日本林業技術協会
予算の見方づくり方'72 学陽書房
平安文学事典 岡 一男

小倉 武一
御園 勇
伊藤 芳夫

利根山光人
浜田 庄司
奈良国立博物館

D・マクニール
白石 大二
B・バラン

菊池 良一
畑山 博
宮原 和夫
綱淵 謙錠
亀川 正東
ボーヴォワール

古川 博
水野 祐
日野郡自治協会
森脇 太一

山本 二郎
日本林業技術協会
学陽書房
岡 一男

2. 視聴覚資料 (16ミリ映画フィルム)

題名	巻数	内容	対象
読むこと、書くこと、生きること	カラー3巻	市立図書館運動、移動図書館運動、おかあさん読書会等々、色々な読書への姿を記録することによって、本を読むことの喜びを感動的にうたいあげる。	成
十代の性と愛	白黒3巻	ある一家を舞台としたドラマの展開のなかで、家庭での「性に関する対話」がどうあるべきか示唆を与え、性は本来人間の尊厳につながる美しいものであることを明らかにする。	高・成
野をかける少女	白黒6巻 (ワイド版)	美しい南モラビアの田園にくりひろげられる、少女レンカと荒馬プリムの詩情ゆたかなものがたり。	小・中・成
思春期における男子の生理	カラー2巻	思春期男子の心身発達特性を基底に、性の意義や役割を正しく理解させ、人間形成の重要な一環としての、思春期にふさわしい健全な生活態度を養わせる。	中
思春期における女子の生理	カラー2巻	思春期女子の	中
わたしのおじいちゃん	カラー3巻	小学校4年の一少女の作文をもとに、老人と孫娘の心温まる交情を美しく描きながら、年老いた人に寄せる子ども心の清らかさを描き上げる。	小・中・成
みんなほんとはともだちだ	カラー3巻	幼ない時自動車事故にあい、その後遺症のため勉強が苦痛になった一人の少年を中心に明るく楽しく、しかもサスペンスをもちこんで、その姿を感動深く描き出し、少年少女たちに人間尊重、個性伸長、動物愛護の精神を高めさせる。	小・中・成
桃っ子太郎	カラー2巻	幼い日から耳にしてきた、なつかしい童謡とおとぎ話の桃太郎。その桃太郎の話を現代版にアレンジしたもの。	幼
水泳教室	カラー2巻	クロール、背泳、平泳、バタフライの順に、手足の動きから息つき、ターン、スタートまでをよい例、悪い例を示しながら詳細に解説していく。	小・中・高・成
ポロギター	カラー3巻	花売り娘の美しい心にギターがひとりで鳴り出し、花がたくさん売れるという人形劇。	幼・小
テレビッ子マンガ子のしつけ	白黒3巻	なぜ子どもたちはこんなにもテレビやマンガに夢中になるのだろうか。大学生までがマンガを読むという。映像が持つ独自の力とそこに欠けているものはなにかを中心に、現代っ子のしつけを考える。	成
モグモグラッパ	カラー2巻	幼児たちに、健康な歯を育てなければならないことを、人形劇でやさしくおしえる。	幼